教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　前期
科目名	キリスト教学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	青木　靖	背景	教会牧師として勤務		

【一般教育目標（GIO）】

キリスト教精神を基盤としたYMCAの理念を理解し、将来作業療法士として活動する学生が、「隣人への愛」を持って実践できるようになることを目標とする。

【目標行動（SBOｓ】

・YMCAの基盤となる「キリスト教」について学び、「生命の尊厳と隣人愛」「愛と奉仕」について理解し、自分の言葉で説明ができる。

・「キリスト教」を基盤としたYMCAグループの各法人の活動を知り、その働きの広がりについて、説明できる。

・他職種連携・他者との関係を通して、互いの価値を見いだし、違いを受け入れることを学び、説明できる。

・YMCA礼拝などに臨む意義を理解し、適切な態度・行動で参加できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション
2	キリスト教とＹＭＣＡ
3	「愛」とは何か
4	①自分を愛する　宝はどこに
5	土台は何か
6	心のいやし
7	使命と責任
8	②隣人を愛する　隣人とは誰か
9	人をさばく
10	ゆるしと和解
11	あわれみの心
12	③神を愛する　キリストのたとえ
13	アイデンティティー
14	いのりの力
15	信仰の意味

使用テキスト	参考テキスト
小型聖書　新共同訳NI44/日本聖書協会	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
	倫理学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
授業終了後にレポート提出（100%）	

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　通年
科目名	基礎生命学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	4単位	教員実務経験	有
教員名	阿部　道生	背景	職員として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

医療科学領域の基盤的内容として、ヒトの身体の仕組みや生命現象を理解できる。

【目標行動（SBOｓ】

・細胞の構造と機能の関連性を説明できる。
・遺伝子情報から形質発現を説明できる。
・生命体・個体の多様性から生態系の進化を説明できる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション：作業療法と生命科学	16	減数分裂と配偶子形成
2	熱（エネルギー）	17	遺伝学の基礎・メンデル遺伝
3	電気	18	発生と分化①・性の決定と受精、初期発生
4	化学進化・生命の進化	19	発生と分化②・組織の分化、器官形成
5	ウイルス・原核細胞・真核細胞	20	発生と分化③・体の構造の発生
6	【実習】細胞小器官① カナダモの原形質流動	21	ヒトの発生①・初期発生
7	細胞小器官②	22	ヒトの発生②・胚子、胎児の発育と胎盤の機能
8	核・DNAの構造と機能	23	ヒトの発生③・プログラム細胞死
9	セントラルドグマ・タンパク質の合成	24	ヒトの遺伝①・正常形質（味覚）
10	【実習】動物の組織・ラットの解剖①	25	ヒトの遺伝②・正常形質（血液型、薬理遺伝）
11	【実習】動物の組織・ラットの解剖②	26	ヒトの遺伝③・遺伝病
12	恒常性・ホルモンと神経系	27	生態系・ヒトと環境
13	生体の機能・代謝	28	生命の起源と進化
14	細胞の増殖・細胞周期と細胞分裂	29	科学的なものの見方
15	定期試験	30	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
「人の生命科学」第三版　医歯薬出版株式会社	「完全版ベッドサイドを科学する－看護に生かす物理学」／平田雅子／Gakken 「化学：化学入門」/大月穣／東京化学同人 「大学生物学の教科書」①～③／サダヴアほか／
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
	生理学、病理学、小児科学、内科学など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験(70%)、レポート（20%）、授業態度(10%)による。	60点以上合格

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	情報科学	学科	作業療法科	開講時期	1年　　前期
科目名	情報科学	履修	必修	授業形態	演習
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	1単位	教員実務経験	有
教員名	宮内　明美	背景	企業内研修部門講師・教育機関講師として勤務		

【一般教育目標（GIO）】

日常業務で必要な、表計算ビジネスアプリケーション技術を習得し、日本企業における日常業務処理の基本を身に付け、情報社会に対応できる人材になる。就職活動につなげる。

【目標行動（SBOｓ】

ビジネスアプリケーションソフトの基本である、Word、PowerPoint、Excelの基本技術を学習し、実習のレポートや報告書が効率よく作成できるように、PC操作における一般的知識と技能を習得する。

回数	授業計画または学習の主題
1	タッチタイピングとWndowsの基本操作、ビジネスメールの文面、Classroomを使用した課題提出方法
2	Word①ビジネス文書作成
3	Word②表作成
4	Word③図形描画機能
5	Word④実習レポート作成のための機能まとめ
6	PowerPoint①新規プレゼンテーションの作成と文字修飾
7	PowerPoint②画像の挿入
8	PowerPoint③テーマ、マスターの変更
9	PowerPoint④アニメーション効果、スライドショーの実行
10	PowerPoint⑤発表のための様々な機能まとめ
11	EXCEL①基本的なワークシートの編集（計算式、表示形式、列幅など）
12	EXCEL②簡単な関数（SUM、Average、MAX、MINなど）
13	EXCEL③グラフの作成
14	WordとExcelとPowerPointのデータのやり取り
15	期末試験

使用テキスト	参考テキスト
30時間でマスター　Office2019（実教出版）	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
	各講義、各臨床実習すべて
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
・課題提出、小テスト（30%） ・授業内参加状況（30%） ・期末試験（40%）	総合評価で60点以上で合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　前期
科目名	ホスピタリティ論	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	8ｺﾏ　　15時間	単位数	1単位	教員実務経験	有
教員名	飛鳥　政明	背景	レストランマネージャー、人事・教育課長等として勤務		

【一般教育目標（GIO）】

あらゆる産業における企業理念として「顧客満足」を掲げている会社が多い中、「顧客満足」を実践できる人財が必要とされる。学生自身がホスピタリティの意味を理解し、どのような考え方、どのような言動を身につけなければならないかという理論および日常的なホスピタリティマインド発揮のための基盤の確立を目指す。

【目標行動（SBOｓ】

学生が卒業後、社会人となり職場からも顧客からも信頼され、本人だけでなく会社からも必要とされる人財となるように学修を深める。そして自ら率先してホスピタリティを理解し、実践できる人財にすることが目標である。

回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション/ホスピタリティマナー
2	ホスピタリティ・マナーの６つの要素
3	ホスピタリティマインドを理解する
4	コミュニケーション
5	自分を知る「ＥＱ］と「ＴＡ］
6	ビジネスとホスピタリティ
7	ビジネスとホスピタリティ
8	期末試験/フィードバック

使用テキスト	参考テキスト
プリント	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
授業出席率（20％）授業態度(10％)、 小テスト（20％×2回＝40％）、期末試験(30％)	100点満点とし、総合評価６０点以上を合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　前期
科目名	社会福祉学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	佐塚　玲子	背景	センター長として社会福祉法人に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・社会福祉の今を、「制度・政策・人々の暮らし」に視点をおき理解を深めることができる。

・作業療法士としての社会福祉との接点について考察することができる。

【目標行動（SBOｓ】

・高齢者・障害者・子どもの生活を理解し、生活ニーズや課題を列挙することができる。

・社会福祉の実現に向けて市民や多様な専門職とのネットワーク構築に必要なアクションを列挙できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション
2	市民生活の今①　近代社会における世帯を考える
3	市民生活の今②　仕事と働き方の変化を考える
4	市民生活の今③　地域自治の今を考える
5	高齢者の暮らし①　高齢化の実態と高齢福祉
6	高齢者の暮らし②　高齢者福祉施策とサービス提供の実際
7	障害のある人の暮らし①　障害種別と当事者のライフステージ
8	障害を持つ人の暮らし②　障害者への地域自立生活支援
9	子ども・若者と福祉①　こども・若者の育ちと自立
10	子ども・若者と福祉②　次世代を担う子ども・若者への福祉
11	地域福祉の今①　地域福祉の昔と今・・地域福祉の課題は？
12	地域福祉の今②　地域福祉の担い手たちのいろいろ
13	福祉制度の現状と今後
14	チームアプローチの必要性福祉専門職のネットワークの重要性とその構築法
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
プリント	地域福祉論/岡村重夫/光生館、地域福祉援助をつかむ/岩間伸之・原田正樹、社会福祉をつかむ／稲沢公一・岩崎晋也、コミュニティを問いなおす/広井良典、ファシリテーション入門／堀　公俊、地域連
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
社会学、医学概論、リハビリテーション概論等	リハビリテーション医学、各地域作業療法学、各評価学、各治療学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
課題提出（40%）、講義内参加状況（30%）、定期試験（30%）	総合評価にて60点以上で合格とする

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　後期
科目名	倫理学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	加藤　智也	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・臨床現場において、対象者の人格を尊重し、尊厳に配慮することが実施できる。

・ホスピタリティマインドを持ち、対象者の人格、価値観を尊重し、QOLの向上やwell-beingを理解する。

【目標行動（SBO s】

・一人の生活者としての「人間の尊厳」について述べることができる。

・倫理的問題と法的、診療的問題を区別することができる。

・倫理的意志決定過程について説明できる。

・事例を通じ、学生自身と異なる価値観についても、尊重することができる。

・作業療法士協会倫理綱領/職業倫理指針について述べることができる。

回数	授業計画または学習の主題
1	倫理的実践としての作業療法ー WFOTの作業療法の定義と倫理綱領
2	モゼイの「作業療法の配置（星座）」における倫理学の位置
3	人々が集まること（思考のはじまり）ー野生の思考と倫理的思考
4	人々と複数性ー参加・分有の思考
5	作業療法と倫理的実践　道徳的リーズニング
6	倫理的実践と健康専門職の徳
7	実践における診療的、法的、倫理的問題の各区別
8	反省と倫理的実践
9	道徳的苦難と倫理的ジレンマ（ケーススタディ）
10	倫理的意思決定の過程について
11	哲学・倫理学・美学　ー作業療法の前提としての「生の形式」
12	芸術の働きと倫理学
13	〃
14	〃
15	授業のまとめ，定期試験

使用テキスト	参考テキスト
プリント配布	・モゼイ・作業療法ー専門職としての位置づけ ・W＆S作業療法　13th ed ・看護実践の倫理ー倫理的意思決定のためのガイド ・いと高き貧しさ一修道院規則と生の形式
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
哲学、医学概論、リハビリテーション概論、作業療法概論など	地域作業療法学、作業療法評価学、作業療法治療学
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
試験(60%)，レポート(20%)，出席態度(20%)	試験：必須概念の理解，レポート：引用と思考の論述，出席態度：思考の表出 60点以上合格

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　前期
科目名	生活環境論	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	8ｺﾏ　　15時間	単位数	1単位	教員実務経験	有
教員名	遠藤　陵晃	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

人間工学、運動学、福祉工学などを中心に、環境が人間に対して、どのように影響を与えるか考える。また、環境調整を講じて症例などのADL、IADL、QOLを理解する。

【目標行動（SBOｓ】

・環境が人間に与える影響要素を説明できる。
・福祉用具、住環境について説明できる。
・事例に対し住環境に応じた提案できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	ADL、IADL総論、
2	生活環境とは
3	住環境の基礎知識
4	福祉用具の基礎知識
5	疾患別住環境検討①（中枢疾患、関節リウマチ）
6	疾患別住環境検討②（脊髄損傷、パーキンソン病）
7	疾患別住環境検討③（難病疾患、内部障害、聴覚・視覚障害）
8	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
プリント	福祉住環境コーディネーター検定試験１～３級／東京商工会議所、クリニカル作業療法シリーズ　福祉用具・住環境整備の作業療法／玉垣努／中央法規
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、運動学 リハビリテーション概論、作業療法概論、	高齢期の治療学、身体障害の治療学、 発達障害の治療学、臨床実習
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
授業参加態度（10%）、課題（10%）、定期試験結果（80%）	総合評価にて６０点以上で合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　後期
科目名	生理学Ⅱ	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	田中　仁一朗	背景	歯科医師として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

呼吸・循環・内分泌・消化吸収など人体の植物性機能を学び、生物としての人間すなわちヒトの生命現象を理解し説明できるようになる。

【目標行動（SBOｓ】

・ニューロンとシナプス、末梢神経系（脳神経、脊髄神経、自律神経）について説明できる。
・消化と吸収について説明できる。・内分泌器官や分泌されるホルモンについて説明できる。
・心臓・血液循環について説明できる。
・呼吸器の構造・換気・呼吸の調節のメカニズムについて説明できる。
・腎臓の構造、尿生成の仕組み、排尿のしくみについて説明できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	序論、ニューロンとシナプス
2	末梢神経系（脳神経、脊髄神経、自律神経系）
3	血液（血球、血漿、止血と血液凝固、血液型）
4	循環（1）心臓、血管、刺激伝導系
5	循環（2）心電図、循環の調節、リンパ循環、ショック
6	消化（1）唾液、咀嚼、嚥下、胃での消化
7	消化（2）小腸、大腸での消化、吸収、排便のしくみ、肝臓と胆嚢
8	腎臓の生理機能、尿生成のしくみ、排尿のしくみ
9	呼吸（呼吸器の概要・換気のしくみ、酸素解離曲線、呼吸の調節）
10	内分泌（視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体（副甲状腺））
11	内分泌（膵臓、副腎髄質、副腎皮質、性腺）
12	体温と体温調節
13	骨格筋の収縮
14	総復習・まとめ
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
1．標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　生理学 第５版／岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範／医学書院 ２．スタディー生理学・口腔生理学 第3版 奥村敏監修、塩澤光一著 永末書店	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学	運動学、小児科学、脳神経内科学、整形外科学、内科学、リハビリテーション医学、発達障害の評価学、身体障害の評価学、各身体障害の治療学、高齢期の治療学、作業療法演習、各臨床実習等
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
小テスト（10%）、講義内参加状況（10%）、定期試験（80%）	総合評価で６０点以上を合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　通年
科目名	運動学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	4単位	教員実務経験	有
教員名	遠藤　敏	背景	理学療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

「解剖学」や「生理学」および力学の基礎知識を統合し、身体運動のメカニズムを理解する。それにより「運動学的分析」を加え、正常動作と病的動作の違いについて考察できる。

【目標行動（SBO s】

・「ベクトル」「モーメント」など生体力学の基礎知識について説明できる。
・身体運動と力学の関係について簡潔な説明ができる。
・運動器の構造や運動の中枢神経機構について説明できる。
・運動学的分析技法を用いて身体運動を分析・評価し考察を加えて文章化し説明できる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション・運動学とは	16	まとめ②
2	力学の基礎：身体運動の面と軸	17	運動学的分析：動作分析①
3	〃　：運動学的分析	18	運動学的分析：動作分析に
4	〃　：モーメント・テコ	19	上肢の動作分析：（演習）
5	運動器の構造（骨・関節・筋）	20	〃　：（演習および報告）
6	運動の中枢神経機構（反射運動など）	21	姿勢と姿勢制御
7	体表解剖（演習）：上肢帯および上肢	22	〃　：（演習）
8	〃　：体幹および下肢	23	〃　：（演習および報告）
9	四肢・体幹の運動：肩関節複合体	24	歩行周期
10	〃　：肘関節	25	歩行分析（演習）
11	〃　：手関節・手指	26	歩行分析（演習および報告）
12	〃　：股関節	27	運動発達
13	〃　：膝関節	28	運動学習
14	〃　：足関節・足部	29	運動学総まとめ
15	まとめ①	30	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
15ﾚｸﾁｬｰｼﾘｰｽﾞ「運動学」／石川朗ほか／中山書店 15ﾚｸﾁｬｰｼﾘｰｽﾞ「運動学実習」／石川朗／中山書店	動作分析臨床活用講座／石井慎一郎／ﾒｼﾞｶﾙﾋﾞｭｰ社 基礎および臨床運動学／医歯薬出版株式会社 PT･OT基礎から学ぶ運動学ノート/中島雅美/医歯薬出版　ほか　授業内適宜紹介
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学および生理学	身体障害作業療法評価学および同治療学演習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験（70%）、授業内小テスト（15%）、課題提出（15%）による総合評価	評価基準A～C：合格（60点以上） 〃　　D：不合格（60点未満）

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　後期
科目名	生涯発達論	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	加藤　智也	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

生涯発達論（ライフサイクル論）と作業療法の関連について理解する。エリクソンの心理社会的発達（自我発達の８段階）について説明する。生活歴と自己形成Bildungという視点から作業療法を捉え直す。

【目標行動（SBOｓ】

作業療法の前提となる生涯発達論（ライフサイクル論）について理解する。
心理社会的な発達の基礎となる臨床心理学的な見方について理解する。
心理社会的な発達理論の作業療法への応用について理解する。
エリクソンの自我の発達の８段階について理解し、自分自身の生活歴との関連からさらに理解を深めることができる。

コマ数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション、作業療法とライフサイクル論
2	発達理論と臨床心理学の基本的な概念　自己と自我
3	エリクソンの自我の発達の８段階　乳児期～学童期
4	〃
5	エリクソンの自我の発達の８段階　青年期～老年期
6	〃
7	アイデンティティの概念
8	エリクソンのgenerativityについて
9	作業療法への応用（１）
10	作業療法への応用（２）
11	症例の生活歴の解釈とレポートの作成
12	〃
13	学生自身の生活歴とレポートの作成
14	〃
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
プリント配布	〈死者/生者〉論 ―傾聴・鎮魂・翻訳―／磯前順一／ぺりかん社
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
作業療法概論，臨床心理学	作業療法評価学、作業療法治療学
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
課題(20％)、定期試験(80％)	60点以上を合格とする。

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　前期
科目名	医学概論	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	8ｺﾏ　　15時間	単位数	1単位	教員実務経験	有
教員名	桂城　俊夫	背景	医師として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

医療従事者として、国民の保健医療福祉の推進のために必要な医学全体の概要を知る。

【目標行動（SBOｓ】

・医療従事者に必要な、対象者に関わる時の心構えやマナーを身に着け、実施する。
・医療上の倫理的配慮やインフォームドコンセントなどについて理解し、説明する。
・医学、医療の歴史や我が国の医療制度を知り、現在の医学が内包する問題点を考察し述べることができる。

回数	授業計画または学習の主題
1	医学のなりたちから中世医学。人間と自然のかかわり。
2	近代医学の確立と現代医学へのつながり。
3	恒常性の破綻としての疾病。正常と異常の区別
4	感染症と環境汚染と悪性新生物
5	患者との接触。問診と診察
6	診断への道から治療の多様性
7	診療録　ヒトの一生を飾るもの
8	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
医学概論　ヒトと文化の交流／加藤清／篠原出版新社	医学の歴史／梶田　明／講談社学術文庫 病気の社会史・文明に探る原因／立川　昭／NHKブックス
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
リハビリテーション概論、作業療法概論、ホスピタリティ論など	倫理学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験（70%）、授業参加態度（30%）	総合評価で６０点以上を合格とする。

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　前期
科目名	内科学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	若林　實	背景	医師として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・医療従事者に必要な内科学の基本を学び、特に頻度の高い疾患についての一般的な知識を習得し、代表的な検査（血液、画像診断など）や薬物療法を学ぶ。

【目標行動（SBOｓ】

・内科学的診断学の知識を深める。
・医学用語に慣れ親しむ。
・特に生命に危険のある疾患を学ぶ。
・リハビリテーションの適用のある疾患についてもより深く学ぶ。

回数	授業計画または学習の主題
1	内科学の一般的知識を学ぶ
2	一般的な血液検査、画像診断、よく使用される薬物療法を学ぶ
3	心筋観察を中心に循環器疾患について学ぶ
4	肺癌を中心に肺炎、ＣＯＰＤなど呼吸器疾患を学ぶ
5	胃癌、胃潰瘍を中心に消化器疾患を学ぶ
6	白血病を中心に血液疾患を学ぶ
7	ウィルス性肝疾患を中心に胆道疾患などを学ぶ
8	コロナ、インフルエンザ、ＡＩＤＳなど感染症について学ぶ
9	病原体と人体はどのように関与しているか免疫について学ぶ
10	悪性腫瘍は他の疾患とどう違うかを学ぶ
11	内分泌疾患について学ぶ
12	尿・生殖器疾患について学ぶ
13	糖尿病など代謝疾患について学ぶ
14	神経・運動器疾患について学ぶ
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学 第3版／大成浄志／医学書院	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、運動学など	リハビリテーション医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
筆記試験（100%）	６０点以上取得をもって単位認定とする

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　前期
科目名	整形外科学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	中澤　明尋	背景	医師として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

急増している骨・関節に関連した運動器疾患の予防と治療について理解できる。
対象者のquarlity of life（QOL）に焦点を当てた全人的治療を目指す視点を理解できる。

【目標行動（SBOｓ】

・骨・軟骨・関節の構造、生化学、病態生理を説明できる。
・診察の基本、検査（画像所見など含）、治療（保存療法、手術療法、薬物療法など含む）の概要を説明できる。
・主要疾患の概要を説明できる。　・関節の機能解剖、疾患について説明できる。
・骨折と脱臼について説明できる。
・全人的治療を目指すリハビリテーションの視点からQOLを高める治療を理解できる。

コマ数	授業計画または学習の主題
1	診察法（症候の診察と検査）と治療法（保存療法と手術療法）
2	画像診断，検査法
3	外傷性疾患
4	スポーツ整形外科
5	変形性関節症
6	関節リウマチ
7	上肢疾患（肩，肘，手関節，手部）
8	下肢疾患（股，膝，足関節，足部）
9	脊椎，脊髄疾患
10	脊髄損傷と末梢神経損傷
11	骨粗鬆症の治療と予防
12	骨脆弱性骨折の治療
13	骨・軟部腫瘍
14	小児整形外科
15	試験

使用テキスト	参考テキスト
標準整形外科学　第13版/中村利孝　監修／医学書院、図解整形外科　第3版／久保俊一　他／金芳堂	関節外科診療ファーストステップ／齋藤知行／南江堂
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、運動学など	リハビリテーション医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験（100%）	60点以上で単位取得とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　後期
科目名	脳神経内科学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	長谷川　節	背景	医師として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・脳神経内科学の概念を理解する。
・脳神経内科学の代表的な疾患について理解し、リハビリテーションが円滑に行える基盤とする。
・脳神経内科学とリハビリテーション医療について理解を深め、説明できる。

【目標行動（SBOｓ】

・神経学的診断（各種検査・画像所見など含）の意義と目的を説明できる。
・神経症候学について説明できる。
・脳血管障害/脳腫瘍/外傷性脳損傷/脊髄疾患など神経疾患の概念・症状・治療法（薬理含む）などを列挙できる。
・神経疾患患者に対してのリハビリテーションについて述べることができる。

回数	授業計画または学習の主題
1	脳神経内科総論-１（神経学的診察、評価、診断）
2	脳神経内科総論-２（神経学的診察、評価、診断）
3	脳神経内科総論-３（神経学的診察、評価、診断）
4	脳神経内科総論-４（検査）、頭痛、てんかん、眩暈
5	脳血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下・硬膜下・硬膜外出血を含む）
6	脳腫瘍、脳外傷、奇形、髄液異常（正常圧水頭症、低髄圧症）
7	小児神経（脳性麻痺、精神発達遅滞、２分脊椎、ダウン症など）
8	変性疾患-１（パーキンソン病（DLBを含む）、パーキンソン症候群（MSAを含む））
9	変性疾患-１（パーキンソン病（DLBを含む）、パーキンソン症候群（MSAを含む））
10	変性疾患-２（脊髄小脳変性症（MSA以外）、ALSとその関連疾患）
11	変性疾患-３（認知症（DLB以外））
12	感染症(脳炎,脊髄炎,ﾔｺﾌﾞ病,神経梅毒,HIV感染症など),脱髄疾患,膠原病とその関連疾患(ｻﾙｺｲﾄﾞｰｼｽ・ﾍﾞｰﾁｪｯﾄなど)
13	脊髄疾患（脊髄血管障害を含む）、末梢神経疾患
14	神経筋接合部疾患、ミオパチー
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　神経内科学　第5版／川平和美／医学書院 および講師作成のプリントを配布する	ベッドサイドの神経の診かた　第18版／田崎義昭、斎藤佳雄、坂井文彦／南山堂 神経局在診断ーその解剖、生理、臨床ー第6版／花北順哉訳／文光堂
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、運動学など	リハビリテーション医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験（100%）	総合評価で60点以上を合格とする。

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　通年
科目名	精神医学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	4単位	教員実務経験	有
教員名	山田　高裕	背景	医師として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・精神医学の概念を理解する。
・精神障害の成因と分類を理解する。
・精神機能の症状と精神症状を理解する。
・脳科学からみた精神機能について理解できる。
・精神障害の診断と評価を理解する。
・主要精神疾患を理解する。
・精神障害に対して用いられる主な治療法について理解する。

【目標行動（SBOｓ】

・精神障害の３つの成因を説明できる。
・精神機能の種類、および精神症状について説明できる。
・身体的検査法、心理検査法などの概要を説明できる。
・精神障害の分類について説明できる。
・精神医学的診察法について説明できる。
・精神症状や社会生活、主観的QOLの評価法の概略について説明できる。
・薬物療法、精神療法、社会的治療やリハビリテーションの概要について説明できる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	精神医学とは	16	正常心理発達
2	精神医学総論①	17	パーソナリティ障害
3	精神医学総論②	18	不安障害①
4	精神医学各論	19	不安障害②
5	統合失調症①	20	摂食障害
6	統合失調症②	21	心身症
7	気分障害①	22	児童精神医学①
8	気分障害②	23	児童精神医学②
9	認知症	24	薬物療法
10	てんかん	25	精神療法
11	アルコール依存症	26	検査
12	薬物依存症	27	精神医学と社会①
13	不眠症	28	精神医学と社会②
14	前期まとめ	29	後期まとめ
15	定期試験	30	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
New Simple Step 精神科 ／高橋茂樹著　岸本年史監修／総合医学社	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、心理学、臨床心理学、病理学など	リハビリテーション医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験（90%）、授業内参加態度（10%）	総合評価で60点以上を合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科		開講時期	2年　　後期
科目名	小児科学		履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験		有
教員名	中澤　美賀・杉山　恵一郎	背景	医師として病院に勤務			

【一般教育目標（GIO）】

医療従事者である作業療法士として関わる小児疾患について知識を得、理解を深める。

【目標行動（SBOｓ】

・小児の疾患について、その原因と特徴、対応について理解し、説明できる。

・リハビリ対象児の抱える疾患や合併症を医学的検査や画像所見を基に医学的に理解し、多（他）職種連携に必要な知識を得、説明することができる。

・発達障害、中枢神経系疾患、筋系疾患など様々な小児疾患の症状、医学的治療（薬理含む）について説明できる。

・小児の疾患患児・者に対してのリハビリテーションについて述べることができる。

回数	授業計画または学習の主題
1	新生児・未熟児疾患
2	小児科学概論
3	先天異常
4	呼吸器疾患
5	神経筋・骨系統疾患（１）
6	消化器疾患
7	神経筋・骨系統疾患（２）
8	血液疾患
9	循環器疾患
10	腎・泌尿器・生殖器疾患
11	感染症
12	小児腫瘍性疾患　心身症
13	内分泌　代謝疾患
14	免疫・アレルギー・膠原病
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学　第5版／富田豊／医学書院	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、運動学、生涯発達論、精神医学、教育学など	リハビリテーション医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
筆記試験（100％）	６０点以上取得をもって単位認定とする

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　前期
科目名	臨床心理学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	深瀬　裕子	背景	臨床心理士として大学に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

臨床心理学の構造とアセスメントの実際，臨床心理学の理論的モデルと介入の技法について理解できるようになることを目的とする。

【目標行動（SBOｓ】

・心理アセスメントの定義を説明することができる。
・心理アセスメントの面接法・観察法・検査法について説明することができる。
・各種心理検査法の特徴や検査結果の解釈について説明することができる。
・フロイトやユング、ロジャースなどの理論モデルを説明することができる。
・認知行動療法やクライエント中心療法などの各療法の特徴について説明することができる。

コマ数	授業計画または学習の主題
1	臨床心理学の概要
2	代表的な心理療法1
3	代表的な心理療法2
4	代表的な心理療法3
5	代表的な心理療法4
6	代表的な心理療法5
7	代表的な心理療法6
8	心理検査の概要
9	心理検査1
10	心理検査2
11	心理検査3
12	心理検査4
13	心理検査5
14	心理検査6
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
なし。プリントを配布する。	必要に応じて適宜紹介する。
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、心理学、リハビリテーション概論、作業療法概論、教育学など	精神医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
試験（100点満点）で評価する。	60点以上で単位取得とする。

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　前期
科目名	病理学概論	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	8ｺﾏ　　15時間	単位数	1単位	教員実務経験	有
教員名	松本　康博	背景	歯科医師として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

基本的な疾患の原因・成り立ちを理解し、代表的で重要な疾患について詳細を学ぶことにより、医療（臨床医学における診断や治療）との関係を理解できる。

【目標行動（SBOｓ】

・病理学の概要について簡潔に説明できる。
・病理学と臨床医学との関係性を理解し、説明できる。
・細胞・組織の障害/代謝異常/循環障害/炎症や感染症/腫瘍について説明できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	病理学の概要
2	細胞、組織の構造と傷害
3	代謝異常、障害、再生と修復
4	循環障害、炎症
5	炎症、感染症
6	免疫、腫瘍
7	腫瘍
8	総括、定期試験

使用テキスト	参考テキスト
カラーで学べる病理学　第5版/渡辺照男編/ヌーヴェルヒロカワ	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学など	リハビリテーション医学、整形外科学、内科学、小児科学など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
試験（90%）、授業への参加態度（10%）	総合評価で６０点以上を合格とする。

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　前期
科目名	リハビリテーション概論	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	加藤　智也	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・リハビリテーションチームの一員である作業療法士を目指す学生として、リハビリテーションの概念（自立支援・就労支援含）について理解をし、自分なりのリハビリテーション像を継続して検討することができる。

【目標行動（SBOｓ】

・リハビリテーションの定義や領域について説明できる。
・ICF・ICIHDについて説明できる。
・関連職種（多職種・他職種）や各種社会保障制度について説明できる。
・地域包括ケアシステムについて調べ、関連する多（他）職種連携を説明できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	リハビリとリハビリテーションへの問い
2	リハビリテーションの歴史（1）前史～誕生まで
3	リハビリテーションの歴史（2）リハビリテーション医学の誕生
4	リハビリテーションの歴史（3）リハビリテーションと作業療法の関連
5	リハビリテーションの歴史（4）日本のリハビリテーションの歴史
6	リハビリテーションの理念と定義
7	リハビリテーションについて考える　全生園と生き方
8	リハビリテーションの現在　ICIDHとICF
9	リハビリテーションの現在　ICF
10	参加の理念と作業療法（演習）
11	リハビリテーションの過程と諸相
12	リハビリテーション関連職種と協働
13	リハビリテーションと制度（社会保障制度と総合支援法）
14	地域包括ケアシステムの実際
15	リハビリテーションと地域生活（コミュニティ），作業療法の位置

使用テキスト	参考テキスト
・ICF(国際生活機能分類)の理解と活用―人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか (KSブックレット) ・リハビリテーション(岩波新書)，砂原茂一(著)	・ICF 国際生活機能分類―国際障害分類改定版（障害者福祉研究会） ・リハビリテーション概論―医学生・コメディカルのための手引書（上好 昭孝他編）
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
作業療法概論、社会学、社会福祉学、キリスト教学	作業療法概論、リハビリテーション医学、基礎医学、臨床医学
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
試験（70％），レポート（20％），出席態度（10％）	60点以上で合格とする

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　後期
科目名	公衆衛生学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	野中　衣理加	背景	歯科医師・口腔保健コンサルタントとして大学に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

公衆衛生学の理念を理解し、ライフサイクルを通じての健康の追求をする。

【目標行動（SBOｓ】

・健康の概念、環境と健康、生活・ライフスタイルと健康の関連、社会の動向と保健・医療・福祉制度、疫学について説明出来る。

・保健医療統計、EBM、 予防の概念、倫理規範と実践、保健医療における個人情報、感染について説明出来る。

回数	授業計画または学習の主題
1	保健統計、疫学
2	環境保健
3	母子保健、学校保健
4	生活・ライフスタイルと健康
5	生活習慣病、生活習慣に関連する政策
6	高齢者保健、障害者福祉・精神保健
7	産業保健
8	根拠に基づいた医療、社会保障制度
9	感染症・国際保健
10	衛生学実習(疫学)
11	衛生学実習(EBM)
12	衛生学実習(感染対策)
13	衛生学実習(環境保健)
14	公衆衛生学　総復習
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
シンプル衛生公衆衛生学2020　鈴木庄亮監修/南江堂 公衆衛生が見える 2020-2021　MEDIC MEDIA	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
医学概論、社会福祉学、統計学、内科学、小児科学、病理学概論など	各種治療学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験90％、授業態度10％をもとに総合評価として60点以上を合格とする。	総合評価６０点以上で合格。

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　後期
科目名	作業療法概論	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	三浦　美紀	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・作業療法を実践できるようになるために、作業療法の原理を理解し、作業療法士になるための心構えと自覚を身につける。

【目標行動（SBO s】

・作業療法の作業の意味を説明できる。
・作業療法とは何か、定義を解釈し説明できる。
・作業療法の起源や歴史を理解し、作業療法の核となる考えを議論できる。
・作業療法の領域と実践場所およびその特徴を理解し、具体的に述べることができる。
・医療職の倫理観を知り、作業療法士として責任のある行動に気づき、作業療法士になる自覚を持って行動できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	作業療法とは（事例から学ぶ）
2	作業療法の作業とは（治療としての作業）
3	作業療法の作業とは（作業の意味・作業の力）
4	作業療法の定義
5	作業療法の歴史
6	作業療法の対象となる人々と作業療法①身体障害領域
7	作業療法の対象となる人々と作業療法②精神障害領域
8	作業療法の対象となる人々と作業療法③発達障害領域
9	作業療法の対象となる人々と作業療法④高齢領域
10	作業療法の対象となる人々と作業療法⑤高次脳機能障害
11	作業療法の対象となる人々と作業療法⑥地域作業療法
12	作業療法の理念　作業療法士の役割
13	作業療法の理念　作業療法士の役割
14	様々な領域で働く作業療法士
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
作業療法学ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰﾃｷｽﾄ「作業療法概論（改訂第2版）」長崎重信監修／ﾒｼﾞｶﾙﾋﾞｭｰ社	「作業療法を観る」菊池恵美子他監修/CBR 標準作業療法学「作業療法概論（第3版）」／二木淑子ほか／医学書院 作業療法の世界　作業療法を知りたい・考えたい人のために（第2版）／鎌倉矩子／三輪書店 「だから、作業療法が大好きです！」葉山靖明/三輪書店
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
社会学、医学概論、ホスピタリティ論、心理学、リハビリテーション概論	身体障害の評価学A、基礎作業学実習、作業療法評価学・治療学
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験(70%) 授業参加態度(10%) 課題提出（20%）	総合60点以上を合格

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　通年
科目名	基礎作業学実習	履修	必修	授業形態	実技
授業時間	45ｺﾏ　　45時間	単位数	3単位	教員実務経験	有
教員名	加藤　智也・宮田　千恵子	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・作業療法における基礎作業学の概念と“作業”の利用について理解する。

・具体的な作品の製作過程を通して作業活動に共通の構造、治療的特徴を種目ごとに理解する。

【目標行動（SBOｓ】

・“作業”が作業療法に用いられる理由を説明できる。

・作業療法にとっての基礎作業学の意義について説明できる。

・作業活動に共通の、材料・道具・工程が互いに関連する構造を説明できる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション、紙細工（宮田担当）	16	オリエンテーション（加藤担当）	31	作品製作（木工・園芸）
2	作品製作①	17	作品製作（陶芸・園芸）	32	作品製作（〃）
3	作品製作②	18	作品製作（〃）	33	作品製作（〃）
4	作品製作②	19	作品製作（〃）	34	作品製作（〃）
5	作品製作②	20	作品製作（〃）	35	作品製作（〃）
6	作品製作③	21	作品製作（〃）	36	作品製作（〃）
7	作品製作③	22	作品製作（〃）	37	作品製作（〃）
8	作品製作③	23	作品製作（〃）	38	作品製作（〃）
9	作品製作③	24	作品製作（〃）	39	作品製作（〃）
10	作品製作③	25	作品製作（〃）	40	作品製作（〃）
11	工程分析・作業分析の理解について	26	作品製作（〃）	41	作品製作（〃）
12	〃（グループワーク）	27	作品製作（〃）	42	工程分析・作業分析
13	〃（グループワーク）	28	工程分析・作業分析	43	グループワーク
14	〃（グループワーク発表）	29	グループワーク	44	発表・まとめ
15	前期定期試験	30	作品製作（木工）	45	後期定期試験

使用テキスト	参考テキスト
基礎作業学実習ガイド／岩瀬義昭／協同医書出版社 つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル／古川宏／医歯薬出版	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
作業療法学概論など	基礎作業学理論、基礎作業学、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験60%、レポート20%、作品・実技20%	各定期試験はそれぞれ60点以上を合格とします。 作品製作をすべて提出した者のみ定期試験の受験資格が得られます。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　前期
科目名	基礎作業学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	宮田　千恵子	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・基礎作業学と“作業”の関係について、および作業療法と“作業”の関係について理解する。

・作業療法の展開について理解する。

【目標行動（SBOｓ】

・基礎作業学と“作業”の関係について説明できる。

・人間にとっての“作業”とは何かについて、説明できる。

・作業療法と“作業”の関係について説明できる。

・作業の治療的意義について説明できる。

・作業の展開と評価、治療、支援の関係について説明できる。

・作業の適用と分類について説明できる。

コマ数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション・作業療法における作業
2	作業とは、ひとの一生の作業
3	自分にとって大切な作業（発表）
4	作業の階層
5	
6	作業の知
7	
8	作業分析
9	
10	作業の利用（目的・手段・場）
11	
12	個人作業、集団作業の特徴と効果
13	
14	治療的自己の利用、指導法
15	後期定期試験

使用テキスト	参考テキスト
ひとと作業・作業活動 新版／山根寛／三輪書店 つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習ﾏﾆｭｱﾙ／古川宏監修／医歯薬出版	作業療法学ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰﾃｷｽﾄ作業学／長﨑重信監修／メジカルビュー社
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
基礎作業学実習	各領域の作業療法評価学および治療学
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験（100%）	各課題及びレポート60点以上、定期試験60点以上を基準とした総合的判断により単位取得とします。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	3年　　前期
科目名	基礎作業学理論	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	加藤　智也	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・「作業療法」における「作業」の概念について理解する。

・作業に基づく実践としての作業療法を理解する。

・人間作業モデル/カナダ作業療法モデルを理解する。

【目標行動（SBOｓ】

・「作業療法」における「作業」について説明できる。

・人間作業モデル/人ー環境ー作業モデルについて説明できる。

・カナダ作業遂行モデルを学び、COPMを用いた作業療法評価を体験する。

回数	授業計画または学習の主題
1	作業療法の定義と作業の定義
2	作業療法の歴史と哲学的前提
3	artにおける技術と芸術
4	身体の使用（マイアーの哲学）
5	手の使用と住まうこと（ライリーの理論）
6	地域生活と「生の形式」「生存のスタイル」
7	作業行動理論から人間作業モデルへ
8	人間作業モデル総論
9	人間作業モデルの実際
10	人間作業モデルの実際
11	カナダ作業療法モデル総論（クライエント中心について）
12	人ー環境ー作業モデルとカナダ作業遂行モデル
13	COPMの実際
14	COPMの実際と作業療法評価
15	COPMの実際　事例検討

使用テキスト	参考テキスト
作業療法がわかる COPM・AMPS実践ガイド / 吉川ひろみ (著),　齋藤 さわ子 (著) /医学書院	「ｸﾗｲｴﾝﾄ中心」作業療法の実践／Thelma Sumsion／協同医書出版、ｸﾗｲｴﾝﾄ中心の作業療法　ｶﾅﾀﾞ作業療法の展開／Mary Law／協同医書出版、事例でわかる人間作業モデル／山田孝／協同医書出版
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
作業療法概論、リハビリテーション概論	基礎作業学、基礎作業学実習、各領域の評価学
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
出席態度（10%），レポート（20%），定期試験（70%）	60点以上を単位認定とする

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　後期
科目名	身体障害の評価学Ａ	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	遠藤　陵晃	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・身体障害領域の作業療法を行う上で必要な各種の検査・測定に基づく評価法および対象者の問題点や利点と、それらの相互関係を理解できる。

【目標行動（SBOｓ】

・身体機能評価法における基本的考え方が説明できる。
・評価のための各種の検査・測定（動作分析装置など含む）を実施できる。
・身体機能と基本動作・日常生活動作の関連について列挙し、説明できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション　ADL/APDL評価とは
2	FIMとは①　FIMの歴史、概念、評価の基本概念を理解する
3	FIMとは②　運動項目の評価（食事・整容）
4	FIMとは③　運動項目の評価（清拭・更衣）
5	FIMとは④　運動項目の評価（トイレ動作・排尿及び排せつコントロール）
6	FIMとは⑤　運動項目の評価（移乗・移動）
7	FIMとは⑥　認知項目の評価（コミュニケーション）
8	FIMとは⑦　認知項目の評価（社会的認知）
9	FIMとは⑧　まとめ
10	その他の評価法について理解する（BI・介護保険下におけるADL評価法）
11	基本動作の理解及び評価①（臥位～寝返り～起き上がり）
12	基本動作の理解及び評価②（座位・立位バランス）（座位～立ち上がり）
13	基本動作の理解及び評価③（座位・立位バランス）
14	基本動作の理解及び評価④　まとめ
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
脳卒中の機能評価ーSIASとFIM（基礎編）／千野直一／金原出版 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のための SOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社．初版、プリントを配布する ADL・実習　15レクチャーシリーズ　理学療法・作業療法テキスト／責任編集：長尾　徹（神戸大学）／長野　聖（四條畷学園大学），総編集：石川　朗（神戸大学）／中山書店	『実習ADL/APDL―学生のためのワークブック』／原和子他／協同医書『ｸﾘﾆｶﾙ作業療法ｼﾘｰｽﾞ　日常生活活動の作業療法』／藤井浩美他／中央法規『作業療法学全書　作業療法評価学　改訂版第3版　第3巻』／生田宗博　編集／協同医書出版社
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
リハビリテーション概論/解剖学/運動学など	リハビリテーション医学、各身体障害の治療学、老年期の治療学、作業療法治療学演習Ⅰ、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
実技試験（20%）、定期試験（80%）	総合評価で60%以上で合格

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　通年
科目名	身体障害の評価学B	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	60ｺﾏ　　120時間	単位数	8単位	教員実務経験	有
教員名	遠藤　陵晃	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・身体障害領域の作業療法を行う上で必要な各種の検査・測定に基づく評価法および対象者の問題点や利点と、それらの相互関係を理解できる。

【目標行動（SBOｓ）】

・身体障害領域における代表的な障害と作業療法評価の関連が説明できる。
・代表的な障害における作業療法評価の方法を説明できる。
・評価結果をもとに、問題点を列挙し、説明できる。

回数	授業計画または学習の主題
1～4	評価概論（評価とは、評価の目的・対象など）
5～8	評価方法：生活能力、ニーズなど、面接、バイタル
9～10	四肢計測測定（上肢長・下肢長・上腕周囲等）
11～16	ROM検査　注意事項・測定方法実技・記録
17～22	感覚検査　注意事項・測定方法実技・記録
23～28	筋力検査　MMT
29	筋力検査　握力・ピンチ力等
30～32	上肢機能検査　STEF・協調テスト等
33～36	身体能力（筋緊張、反射）
37～40	片麻痺機能回復段階（Brunnstrom法など）
41～44	脳神経検査
45～46	高次脳機能概要
47～52	高次脳機能（注意、記憶、認知、その他）
53～56	その他の評価、まとめ
57～60	中間試験・定期試験

使用テキスト	参考テキスト
能登真一ほか編集：標準作業療法学　専門分野　作業療法評価学．第3版．医学書院．2017 ベッドサイドの神経の診かた 第18版／田崎義昭他／南山堂 能登真一ほか編集：標準作業療法専門分野高次脳機能障害／医学書院 津山直一訳：新・徒手筋力検査法 10版／協同医書版	作業療法評価学/佐竹勝 他/メジカルビュー社 神経診察クローズアップ/鈴木則宏 他/メジカルビュー社 PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学／潮見泰藏／羊土社作業療法学全書 作業療法評価学 改訂版第3版第3巻/生田宗博 編/協同医書出版社
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、運動学、内科学、リハビリテーション医学等	各身体障害の治療学、高齢期の治療学、作業療法治療学演習Ⅰ、各臨床実習等
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
受講態度（10%）、課題レポート（10%）、中間試験（40%）、定期試験（40%）による総合評価	総合評価Ａ・Ｂ・Ｃ（60点以上）⇒ 合格 総合評価Ｄ（60点未満）⇒ 不合格

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　前期
科目名	精神障害の評価学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　60時間	単位数	4単位	教員実務経験	有
教員名	宮田千恵子・加藤智也・金山桂	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・精神機能作業療法の歴史を理解できる。・医学的リハビリテーションと精神機能作業療法を理解できる。
・関係法規の概論を理解できる。・精神機能作業療法における主たる対象疾患について理解を深める。
・精神機能作業療法の対象理解と評価（画像評価など含む）について理解できる。
・統合失調症、双極性障害および抑うつ障害群、神経症性障害などの各疾患に応じた評価方法があることを理解する。

【目標行動（SBO s】

・各疾患の特徴と障害構造を説明できる。
・各疾患に適した評価方法について説明できる。
・各疾患に必要な評価項目をあげることができる。
・各疾患に応じた評価を実践し、まとめることができる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	精神領域を中心に作業療法の歴史を学ぶ	16	依存症候群の理解と作業療法
2	精神領域を中心に作業療法の歴史を学ぶ	17	依存症候群の理解と作業療法
3	精神領域を中心に作業療法の歴史を学ぶ	18	依存症候群の理解と作業療法
4	精神領域を中心に作業療法の歴史を学ぶ	19	依存症候群の理解と作業療法
5	精神科医療の基礎知識	20	依存症候群の理解と作業療法
6	精神科医療の基礎知識	21	気分障害の理解と作業療法
7	精神科作業療法の基礎知識	22	気分障害の理解と作業療法
8	精神科作業療法の基礎知識	23	気分障害の理解と作業療法
9	観察からの評価と記録	24	気分障害の理解と作業療法
10	観察からの評価と記録	25	神経症性障害の理解と作業療法
11	観察からの評価と記録	26	神経症性障害の理解と作業療法
12	観察からの評価と記録	27	神経症性障害の理解と作業療法
13	観察からの評価と記録	28	神経症性障害の理解と作業療法
14	観察からの評価と記録	29	定期試験
15	中間テスト	30	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
・精神障害と作業療法　新版／山根寛／三輪書店 ・現代臨床精神医学／大熊輝雄／金原出版 ・精神疾患の理解と精神科作業療法／堀田英樹／中央法規 ・NewSimple Step精神科／岸本年史／総合医学社 ・精神科の薬がわかる本/姫井照男/医学書院 ※その他、参考文献は授業の中で紹介します。	・作業療法学６ゴールドマスターテキスト　精神障害作業療法学　/長崎重信/メジカルビュー社・生活を支援する精神障害作業療法　第2版／香山明美　他／医歯薬出版・精神科の薬がわかる本/姫井照男/医学書院
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
精神医学、心理学、臨床心理学、生涯発達論など	精神障害の治療学A/B，臨床実習Ⅱなど
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験（100%）	各課題及びレポート60点以上、定期試験60点以上を基準とした総合的判断により単位取得とします。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　前期
科目名	発達障害の評価学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	4単位	教員実務経験	有
教員名	三浦　美紀	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・発達障害領域の作業療法の流れについて説明できる。

・発達障害領域における様々な職域やその役割について理解し、説明できる。

・発達障害領域の対象児・者の理解と、障害像について説明できる。

【目標行動（SBOｓ】

・発達障害領域の対象児・者について、臨床像と医学的治療を理解し、作業療法評価項目を挙げられる。

・子どもの定型発達の知識を体得し、評価項目とつなげることができる。

・発達障害領域で一般的な治療理論の基礎を理解し、説明することができる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	発達障害領域の作業療法の理念と目的	16	発達段階と評価（幼児期の運動発達）
2	発達障害領域の作業療法の対象疾患	17	子どもの評価（発達的観点からのまとめ）
3	対象疾患の理解（行動障害）	18	子どもの評価（活動分析の視点）
4	対象疾患の理解（行動障害）	19	子どもの評価（感覚統合の視点）
5	発達段階と評価（発達を理解するということ）	20	子どもの評価（感覚統合の視点）
6	発達段階と評価（乳児期の身体的発達）	21	子どもの評価（感覚統合の視点）
7	発達段階と評価（乳児期の認知的発達）	22	子どもの評価（認知機能の視点）
8	発達段階と評価（幼児期の認知的発達）	23	子どもの評価（認知機能の視点）
9	発達段階と評価（子どもの情緒・社会的発達）	24	子どもの評価（行為機能の視点）
10	発達段階と評価（乳児反射の発達）	25	子どもの評価（行為機能の視点）
11	対象疾患の理解（運動障害）	26	子どもの評価実践（JMAP）
12	対象疾患の理解（運動障害）	27	子どもの評価実践（JMAP）
13	対象疾患の理解（運動障害）	28	子どもの評価実践（JMAP，JPAN）
14	発達段階と評価（乳児期の運動発達）	29	子どもの評価実践（臨床観察）
15	発達段階と評価（乳児期の運動発達）	30	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
図解　作業療法技術ガイド　第３版／石川斉　他／文光堂 標準作業療法学　発達過程作業療法学／福田恵美子／医学書院 子どもに優しくなれる感覚統合／石井孝弘／学苑社	人間発達学第2版／岩崎清隆／医学書院 発達障害の作業療法基礎編第3版/岩崎清隆他/三輪書店 発達が気になる子どもを地域で支援！保育・学校生活の作業療法サポートガイド/酒井康年編/メジカルビュー社
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
心理学 運動学 小児科学	生涯人間発達学、発達障害の作業療法治療学、臨床実習
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
課題・レポート（30%）授業参加態度（20%）定期試験（50%） 総合で60%以上を合格とする。	必須課題：対象疾患の「疾患の概要と定義、原因と機序、臨床像と予後、医学的治療と他職種支援」についてまとめたノート作成。疾患は少なくとも以下について取り上げること（脳性麻痺・知的障害・筋ジストロフィー・二分脊椎症・自閉スペクトラム症・学習症・注意欠如多動症・骨形成不全症・重症心身障害・内部障害）尚、インターネットや他人のものをコピーし作成した場合は、不正行為とみなし採点対象にはしない。総合で60%以上を合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　後期
科目名	身体障害の作業療法治療学A	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	遠藤　陵晃・名古屋　和茂	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・脊髄損傷・切断および一般整形外科疾患（下肢を含む）の作業療法の指導・援助に必要な知識を理解できる。

・脊髄損傷・切断および一般整形外科疾患（下肢を含む）の原因と機序、治療原理や治療技法の原則を説明できる。

【目標行動（SBOｓ】

・脊髄損傷・切断および一般整形外科疾患（下肢を含む）における作業療法の考え･目的・流れなど基本的な考え、病態像・症状などを理解し説明できる。

・脊髄損傷・切断および一般整形外科疾患（下肢を含む）の病態像・症状・作業療法介入について理解し，治療介入や訓練内容を立案し、説明できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	初回オリエンテーション/治療の流れ
2	上肢骨折に対するアプローチ（評価～治療）
3	下肢骨折に対するアプローチ（評価～治療）
4	下肢骨折に対するアプローチ（治療）
5	末梢神経障害に対するアプローチ（評価）
6	末梢神経障害に対するアプローチ（治療）①
7	末梢神経障害に対するアプローチ（治療）②
8	切断に対するアプローチ（評価・治療）
9	脊髄損傷に対するアプローチ（評価）
10	脊髄損傷に対するアプローチ（治療）①
11	脊髄損傷に対するアプローチ（治療）②
12	頚椎症・脊髄疾患（評価～治療）
13	屈筋腱断裂に対する評価および治療方法
14	熱傷に対する評価および治療方法
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
長﨑重信監修：身体障害作業療法学（作業療法学４ゴールドマスターテキスト）メジカルビュー社、石川齋　他編：図解作業療法技術ガイド　第３版．文光堂	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、運動学、各身体障害の評価学、整形外科学、リハビリテーション医学など	作業療法演習Ⅰ、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
小テスト（30％）、定期試験（60％）、装具制作（10％）	総合評価で60％以上を合格とする

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	3年　　前期
科目名	身体障害の作業療法治療学B	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	60ｺﾏ　　120時間	単位数	8単位	教員実務経験	有
教員名	遠藤　陵晃・名古屋和茂	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

脳血管障害および脳外傷（以下、中枢疾患）を中心に発生機序や臨床症状を踏まえ、急性期～生活期の作業療法の理解を深める。

症例の生活を理解し、作業遂行障害に対して、論理的に分析し、援助方法を理解、提示する。

【目標行動（SBO s】

・中枢疾患の発生機序、急性期～生活期の作業療法を説明できる。

・中枢疾患の作業療法を他の関係職種とともに協調して行える。

・関節リウマチ、内部障害（心疾患・呼吸器疾患・悪性腫瘍など）、神経難病における作業療法の考え･目的・流れなど基本的な考え、病態像・症状などを理解し説明できる。作業療法介入について理解し、治療介入や訓練内容を立案し、説明できる。

回数	授業計画または学習の主題
1～6	脳血管障害の総論（発生機序、病態像など）脳血管障害の障害像の理解
7～12	脳血管障害の作業療法評価（画像所見の読影、評価立案、予後予測など）
13・14	脳外傷の総論（発生機序、病態像など）
15～16	中枢疾患に対する治療法総論、治療法・技術援助（運動療法、筋力増強法など）
17～22	中枢疾患に対する治療法・技術援助（運動療法、知覚障害、筋力増強法など）
23～26	中枢疾患に対するADL・IADL訓練、指導法
27・28	屈筋腱断裂に対する評価および治療方法
29	熱傷に対する評価および治療方法
30～32	関節リウマチの作業療法評価、治療
33～37	呼吸器疾患、循環器疾患に対する作業療法評価、治療
38～39	代謝障害、糖尿病と作業療法評価、治療
40～41	悪性腫瘍など対する作業療法治療学
42～46	神経難病に対する作業療法評価、治療
47～56	高次脳機能障害に対する治療法・技術援助
57～60	定期試験　その他

使用テキスト	参考テキスト
身体障害作業療法学（作業療法学４ゴールドマスターテキスト）／長崎重信　監／メジカルビュー社、脳卒中最前線　急性期の診断からリハビリテーションまで　第4版／福井圀彦　他編／医歯薬出版ADL・実習15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト、能登真一ほか編集：標準作業療法専門分野高	PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方/中島雅美他/医歯薬出版、リハビリテーションリスク管理ハンドブック第3版/亀田メディカルセンター編 くわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション／鹿島晴雄編／永井書店、図解作業療法技術ガイド　第４版／石川齋　他
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、運動学、各身体障害の評価学、神経内科学、リハビリテーション医学など	作業療法学演習Ⅰ、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
授業態度（10%）、課題提出（10%）、小テスト（20%）、定期試験（60%）	総合評価にて６０点以上で合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科		開講時期	2年　　後期
科目名	老年期の作業療法治療学		履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験		有
教員名	遠藤　陵晃	背景	作業療法士として病院に勤務			

【一般教育目標（GIO）】

・高齢者のＡＤＬ、ＱＯＬを支援するための作業療法の基礎的知識を身につけることができる。

【目標行動（SBOｓ】

・老年期障害に対する作業療法の特徴や基本的な視点について理解し、説明ができる。

・認知症高齢者・虚弱高齢者・障害高齢者に対する作業療法の基本的な考え方や実践について理解し、説明ができる。

・高齢者の生活やQOLを支援するための作業療法の基礎的知識を理解し、説明ができる。

・各施設に求められている作業療法の介入方法を立案できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション　老年期作業療法の枠組み
2	老年期作業療法の対象
3	老年期作業療法の制度的位置づけと実施形態
4	老年期とはどのような時期か①
5	老年期とはどのような時期か②
6	老年期のリスク管理
7	老年期における他職種、他機関等の連携
8	老年期作業療法の評価
9	老年期作業療法の介入　日常生活活動および心理的支援：傾聴・観察
10	老年期作業療法の介入　日常生活活動および心理的支援：傾聴・観察
11	家族介護の関わり、高齢者の人権と権利擁護
12	高齢期の症例像、虚弱高齢者、フレイル
13	心身機能・活動・参加支援：レクリエーションまたはアクティビティ導入計画
14	グループワーク
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
老年期の作業療法　改訂第3版／鎌倉矩子　他編／三輪書店 図解　作業療法技術ガイド　／石川齋　他編／文光堂 PT・OTのための臨床技能とOSCE　機能障害・能力低下への介入編／才藤栄一監修／金原出版	高齢者のリハビリテーション／千野直一編集／リハビリテーションムック／金原出版／ 嚥下障害ポケットマニュアル／聖隷三方原病院嚥下チーム／医歯薬出版
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
解剖学、生理学、運動学、各身体障害の評価学、神経内科学、リハビリテーション医学など	作業療法演習Ⅰ、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
授業参加態度（10%）、課題（10%）、 定期試験結果（80%）	60点以上で単位取得とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　後期
科目名	発達障害の作業療法治療学A	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	三浦　美紀	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

発達障害の作業療法を行うために必要な知識、考え方、態度を身につける。

【目標行動（SBOｓ】

・発達過程について諸機能とその関連を理解し、治療につなげることができる。

・発達障害領域で関わる対象児・者の理解と作業療法について考察し、介入方法を立案することができる。

・発達障害領域の関わる対象児・者の社会環境や関わる職種と多(他）職種連携の考え方について知り、議論することができる。

回数	授業計画または学習の主題
1	発達領域の支援の場と作業療法士の役割
2	食事の評価と援助（摂食機能の発達と分析）
3	食事の評価と援助（摂食機能障害の評価と援助）
4	更衣の評価と援助（更衣動作の発達と分析）
5	更衣の評価と援助（更衣動作の評価と援助）
6	疾患別作業療法の実際（知的障害／外部講師）
7	疾患別作業療法の実際（知的障害／外部講師）
8	特別講師　当事者家族
9	排泄行為の評価と援助（排泄機能の発達と分析）
10	排泄行為の評価と援助（排泄行為の評価と援助）
11	疾患別作業療法の実際（自閉スペクトラム症／外部講師）
12	疾患別作業療法の実際（自閉スペクトラム症／外部講師）
13	他職種連携の実際（肢体不自由児／外部講師）
14	他職種連携の実際（肢体不自由児／外部講師）
15	後期定期試験

使用テキスト	参考テキスト
標準作業療法学　発達過程作業療法学／加藤寿宏／医学書院 子どもに優しくなれる感覚統合／石井孝弘／学苑社	発達障害の作業療法基礎編第3版/岩崎清隆他/三輪書店
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
発達障害の評価学	発達障害の治療学B、臨床実習、作業療法学研究A
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
授業態度（30%） 課題・発表内容（10%） 定期試験（60%）	総合60点以上を合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	3年　　前期
科目名	発達障害の作業療法治療学B	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	三浦　美紀	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

発達障害の作業療法を行うために必要な知識、考え方、態度を身に付ける。

【目標行動（SBOｓ】

・発達過程について諸機能とその関連を理解し、治療につなげることができる。

・発達障害領域で関わる対象児・者の理解と作業療法について考察し、介入方法を立案することができる。

・発達障害領域の関わる対象児・者の社会環境や関わる職種と多(他）職種連携の考え方について知り、議論することができる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	感覚統合理論の基礎	16	疾患別作業療法の実際（内部疾患）
2	感覚統合理論の基礎	17	疾患別作業療法の実際（内部疾患）
3	感覚統合障害と治療	18	疾患別作業療法の実際（被虐待児）
4	感覚統合障害と治療	19	疾患別作業療法の実際（筋疾患）
5	感覚統合療法事例検討	20	疾患別作業療法の実際（骨疾患等）
6	疾患別作業療法の実際（脳性麻痺）	21	疾患別作業療法の実際（二分脊椎）
7	疾患別作業療法の実際（脳性麻痺）	22	巡回相談の作業療法士の役割（ASD）
8	疾患別作業療法の実際（脳性麻痺）	23	巡回相談の作業療法士の役割（ASD）
9	疾患別作業療法の実際（脳性麻痺）	24	遊びの支援（重心）
10	脳性麻痺幼児期事例検討	25	遊びの支援（重心）
11	脳性麻痺学齢期事例検討	26	生活支援と連携（重心）
12	脳性麻痺成人期事例検討	27	生活支援と連携（重心）
13	疾患別作業療法の実際（新生児疾患）	28	まとめ
14	疾患別作業療法の実際（新生児疾患）	29	定期試験
15	疾患別作業療法の実際（重症心身障害）	30	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
標準作業療法学　発達過程作業療法学／加藤寿宏／医学書院 子どもに優しくなれる感覚統合／石井孝弘／学苑社	発達障害の作業療法基礎編第3版/岩崎清隆他/三輪書店 標準作業療法学　発達過程作業療法学／加藤寿宏／医学書院 脳性まひ児の家庭療育／上杉雅之監訳／医歯薬出版 ｲﾗｽﾄでわかる人間発達学／上杉雅之監修／医歯薬出版 人間発達学第2版／岩崎清隆／医学書院
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
発達障害の評価学	発達障害の治療学B 治療学演習Ⅱ
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
授業態度（30%） 課題・発表内容（10%） 定期試験（60%）	総合評価で6割以上を単位認定とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　後期
科目名	精神障害の作業療法治療学A	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	宮田　千恵子	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・精神機能作業療法の実践方法と作業療法過程を理解できる。

・統合失調症、双極性障害および抑うつ障害群、神経症性障害などの各疾患に対する作業療法に必要な知識と技術について理解できる。

【目標行動（SBOｓ】

・精神機能作業療法の場について説明できる。

・精神機能作業療法の実践過程について説明できる。

・各疾患における回復過程に沿った作業療法、その役割について説明できる。

・各疾患における作業選択と作業療法士の役割を説明できる。

・各疾患に対して、作業療法の介入方法を立案できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	統合失調症の理解と作業療法～回復過程の応じたアプローチ　集団の構造と治療的利用①
2	統合失調症の理解と作業療法～回復過程の応じたアプローチ　集団の構造と治療的利用②
3	統合失調症の理解と作業療法～回復過程の応じたアプローチ　集団の構造と治療的利用③
4	統合失調症の理解と作業療法～回復過程の応じたアプローチ　集団の構造と治療的利用④
5	統合失調症の理解と作業療法～回復過程の応じたアプローチ　集団の構造と治療的利用⑤
6	統合失調症の理解と作業療法～回復過程の応じたアプローチ　集団の構造と治療的利用⑥
7	認知症の理解と作業療法①
8	認知症の理解と作業療法②
9	認知症の理解と作業療法③
10	認知症の理解と作業療法④
11	発達障害の理解と作業療法①
12	発達障害の理解と作業療法②
13	パーソナリティ障害の理解と作業療法①
14	パーソナリティ障害の理解と作業療法②
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
・精神障害と作業療法　新版／山根寛／三輪書店 ・現代臨床精神医学／大熊輝雄／金原出版 ・精神疾患の理解と精神科作業療法／堀田英樹／中央法規 ・NewSimple Step精神科／岸本年史／総合医学社　・精神科の薬がわかる本/姫井照男/医学書院 ＊その他、参考文献は授業の中で紹介します。	・作業療法学６ゴールドマスターテキスト　精神障害作業療法学　/長崎重信/メジカルビュー社　・生活を支援する精神障害作業療法　第2版／香山明美　他／医歯薬出版
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
精神医学、心理学、臨床心理学、生涯発達論など	精神障害の治療学B、臨床実習Ⅱなど
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
定期試験（100％）	各課題及びレポート60点以上、定期試験60点以上を基準とした総合的判断により単位取得とします。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	3年　　前期
科目名	精神障害の作業療法治療学B	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	45ｺﾏ　　90時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	宮田　千恵子	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・精神科作業療法の実践方法について理解する。

・疾患ごとの実践方法の枠組みを理解し、事例に対し必要となる評価や治療計画を立てることができる。

【目標行動（SBOｓ】

・ICFモデルの活用について説明できる。

・事例における作業療法の治療・支援について説明できる。

・各疾患および回復過程における作業療法の実践について説明できる。

・事例に対する作業療法の治療や支援の実践について考察できる。

・事例検討を通じ、作業療法介入目的・方法・再評価などを系統だてて立案できる。

回数	授業計画または学習の主題
1～9	疾患別の作業療法の実際を学ぶ（統合失調症）
10～15	疾患別の作業療法の実際を学ぶ（神経症）
16	中間テスト
17～23	疾患別の作業療法の実際を学ぶ（気分障害）
24～29	疾患別の作業療法の実際を学ぶ（認知症）
30	前期定期試験
31～32	精神障害者の生活に必要なサービスの理解
33-44	地域生活（デイケア等）における支援を学ぶ
45	後期定期試験

使用テキスト	参考テキスト
・精神障害と作業療法　新版／山根寛／三輪書店 ・精神疾患の理解と精神科作業療法／堀田英樹／中央法規　・現代臨床精神医学／大熊輝雄／金原出版　・NewSimple Step精神科／岸本年史／総合医学社　・精神科の薬がわかる本/姫井照男/医学書院	・作業療法学６ゴールドマスターテキスト　精神障害作業療法学　/長崎重信/メジカルビュー社　・生活を支援する精神障害作業療法　第2版／香山明美　他／医歯薬出版
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
精神障害の評価学、精神障害の治療学A	治療学演習Ⅱ、臨床実習Ⅲ
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
課題レポート（20%）、定期試験（80%）	各課題及びレポート60点以上、学期末テスト60点以上を基準とした総合的判断により単位取得とします

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	3年　　前期
科目名	作業療法治療学演習Ⅰ	履修	必修	授業形態	演習
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	名古屋　和茂	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・臨床医学および作業療法治療学を基盤とし、対象者へ具体的な身障系作業療法介入の一連の流れを立案できる。

・身障系作業療法介入において、必要となる評価技法/治療技法などを実施できる。

【目標行動（SBO s】

・模擬患者に対して、障害像に合わせた評価を実施・測定することができる。

・診療記録など記録物へ指定の記録方法で記載することができる。

・事例検討を通じ、作業療法介入目的・方法・考察・目標設定・再評価などを系統だてて立案できる。

・各種制度などを理解し、チーム医療/多（他）職種連携/地域包括ケアシステムなどを踏まえて作業療法の一連の介入過程を立案できる。

・臨床現場で行われている介入方法（吸引など含む）を体験および説明できる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	（模擬患者に対する）作業療法の評価～考察までの復習(SBO#1・2)	16	スプリントについて
2		17	
3		18	臨床現場におけるアプローチ①MTDLP（SBO#3・4・5）
4		19	
5		20	臨床現場におけるアプローチ②OT（SBO#3・5）
6		21	臨床現場におけるアプローチ③反復促通法（SBO#3・5）
7		22	臨床現場におけるアプローチ④各種訓練道具の作成（SBO#3・5）
8		23	
9		24	地域におけるＯＴアプローチの理解①老健・デイケアにおけるOT（SBO#3・4・5）
10		25	
11		26	地域におけるＯＴアプローチの理解②訪問リハ（SBO#3・4・5）
12	症例検討課題提示・記録の書き方（SBO#2・3）	27	
13	症例検討課題（SBO#3）	28	評価技法の実技試験（SBO#1）
14	物理療法に対する理解（SBO#3・5）	29	
15	吸引に対する理解（SBO#3・5）	30	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
一般社団法人日本作業療法士協会：作業療法マニュアル66生活行為向上マネジメント改訂第３版. 適宜紹介しますが、身障系評価学で使用したテキストは使用します	布宮伸他：医療スタッフのための痰の吸引．学研メディカル 庄本康治編集：エビデンスから身につける物理療法．羊土社 必要に応じ適宜紹介
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
各臨床医学、各身体障害の評価学、各身体障害の治療学、老年期の治療学、社会福祉学、地域作業療法学など	総合臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
事例検討（30％）、課題・実技（20％）、定期試験（50％）	総合評価で60％以上で合格

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	3年　　前期
科目名	作業療法治療学演習Ⅱ	履修	必修	授業形態	演習
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	宮田　千恵子・三浦　美紀・金山　桂	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・臨床医学および作業療法治療学を基盤とし、対象者へ具体的な精神系/発達系/高齢系作業療法介入の一連の流れを立案することができる。

・事例または模擬患者に対して必要となる評価や治療計画が立てられるようになる。

・事例を通して作業療法評価と治療・指導・援助内容の理解を深めることができる

【目標行動（SBOｓ】

・模擬患者に対して、適切に評価を実施・測定することができる。

・事例検討を通じ、作業療法介入目的・方法・再評価などを系統だてて立案できる。

・チーム医療の模擬的場面を通じ、作業療法士の役割や目的を明確に意見することができる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	精神領域症例検討（地域および就労）	16	高齢領域症例検討
2		17	
3		18	
4		19	
5		20	
6		21	発達領域症例検討
7		22	
8		23	
9		24	
10		25	
11	高齢領域症例検討	26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	

使用テキスト	参考テキスト
＊主に配布資料等を用います。	・標準作業療法学　専門分野 地域作業療法学　第3版／大熊明・加藤朋子　編／医学書院　・生活を支援する精神障害作業療法／香山明美　他／医歯薬出版 ・精神障害と作業療法　新版／山根寛／三輪書店 ・これならわかるスッキリ図解　障害者総合支援法/二本柳覚／翔泳社
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
精神医学、心理学、各評価学、各治療学等	総合臨床実習Ⅲ,Ⅳ
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
レポート（授業参加態度含む）40％、定期試験60％	成績は、三分野を総合的に判断して一科目として評価します。定期テストでは三分野それぞれで6割以上とします。必須課題：レポート提出

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	4年　　集中
科目名	作業療法研究A	履修	必修	授業形態	演習
授業時間	90ｺﾏ　　180時間	単位数	6単位	教員実務経験	有
教員名	三浦　美紀・加藤　智也	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

作業療法研究を実施し研究論文の作成と公表の方法を実践できる。

【目標行動（SBOｓ】

・研究疑問を設定し研究計画を立案できる。
・研究成果を複眼的視点から十分に分析し、考察することができる。
・研究論文およびプレゼンテーション資料を作成し公表することができる。
・科学的な視点を持った課題解決方略の定着と高い倫理観を身につけ、行動することができる。

回数	授業計画または学習の主題
1～11	研究テーマの決定
12～22	研究計画の立案（文献研究の場合は、先行研究からの問題提起、研究意義の策定）
23～33	研究実施（文献研究の場合は、文献収集と精読）
34～44	同上：このうち１または2回を中間発表会とする（今年度は第５週火曜日２限目の予定）
45～55	研究実施（文献研究の場合は、結果：データ分析）
56～67	研究実施（文献研究の場合は、考察作成）
68～79	論文作成
80～90	論文完成・レジュメ作成・発表練習
	（コマ数と内容を参考として、指導教員の元で学習を進め、作成するものとする。）
	なお本学での研究は以下の通りとする。
	＜研究課題＞
	①文献研究：あるテーマについて国内外の文献を比較・分析し考察するもの。
	② 調査・実験研究：学内で学生限定で実施可能なもの。結果を分析し、関連文献から考察するもの。
	※ 論文の書式等については、別途ガイダンスで指定する。

使用テキスト	参考テキスト
	標準作業療法学　専門分野 作業療法研究法第2版／山田孝　他／医学書院 この１冊できちんと書ける！論文・レポートの基本／ 石黒圭／日本実業出版
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
作業療法評価学・治療学、専門基礎系科目、セミナー・臨床実習・研究基礎	総合臨床実習
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
提出書類内容(計画書･中間発表･最終提出物):70% 受講態度(締切厳守･指導教員とのやり取り):10% 発表態度(中間発表会･卒業研究発表会):20%	総合評価Ａ・Ｂ・Ｃ（60点以上）⇒ 合格 総合評価Ｄ（60点未満）⇒ 不合格 ガイダンスで指定された日までに研究計画書・文献レビューを提出することが履修の前提条件である

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	4年　集中
科目名	作業療法研究B	履修	必修	授業形態	演習
授業時間	75ｺﾏ　150時間	単位数	5単位	教員実務経験	有
教員名	加藤　智也	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

国家試験合格に必要な基礎医学・臨床医学・障害別作業療法学などの知識を再確認し強化する。

【目標行動（SBOｓ】

・個々の達成目標を設定し、そのための具体的学習方法やスケジュールを設定できる。
・少人数ゼミ形式で、各自の役割に沿って、自主的に学習を進めることができる。
・模擬試験において、国家試験合格を目指せる得点を取ることができる。

回数	授業計画または学習の主題
1	国家試験対策 ※授業内容の詳細は初講日に案内する。
～	
30	国家試験対策

使用テキスト	参考テキスト
PT/OT国家試験必修ポイント　障害別OT治療学2020／医歯薬出版 PT/OT国家試験必修ポイント　基礎OT学2020／医歯薬出版 PT/OT国家試験必修ポイント　専門基礎分野　臨床医学2020／医歯薬出版 PT/OT国家試験必修ポイント　専門基礎分野　基礎医学2020／医歯薬出版 PT・OT国家試験共通問題でるもん・でたもん【基礎医学】／医学書院 PT・OT国家試験共通問題でるもん・でたもん【臨床医学】／医学書院	クエスチョンバンク　作業療法士国家試験問題解説専門問題2020版／医療情報科学研究所　編／メディックメディア クエスチョンバンク　理学療法士作業療法士国家試験問題解説共通問題2020版／医療情報科学研究所　編／メディックメディア
この授業の基礎となる科目	**この授業を基礎とした科目**
解剖学、生理学、運動学および各疾患学、各評価学、各治療学等	国家試験
単位認定の方法及び基準	**試験やレポートの評価基準など**
受講態度（20%）、模擬試験（80%） 最終期三回の模擬試験結果および確認テストの結果が合格点に達成することを条件とする。	総合評価Ａ・Ｂ・Ｃ（模擬試験168点以上）⇒ 合格 総合評価Ｄ（模擬試験168点未満）⇒ 不合格

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　前期
科目名	地域作業療法学	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	15ｺﾏ　　30時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	遠藤　陵晃	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・地域作業療法を理解するために地域の捉え方、地域リハビリテーション、実践過程における評価の視点までの枠組みを理解する。

・対象者および障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識を習得できる。

【目標行動（SBOｓ】

・わが国における社会保障制度の枠組みを説明できる。

・多（他）職種の業務と役割、連携の必要性を説明できる。

回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション　地域という概念に関して
2	地域を調べる
3	地域について発表と補足
4	地域包括ケアシステムとは
5	社会保障制度など制度や施策について
6	介護保険制度について
7	病期と作業療法
8	多・他職種連携について
9	地域事業について
10	地域作業療法の実践
11	事例の説明と事例提示
12	グループワーク
13	発表と補足
14	まとめ
15	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
標準作業療法学　専門分野 地域作業療法学　第3版／大熊明・加藤朋子　編／医学書院	職業リハビリテーション学　改訂第2版/松為信雄・菊池恵美子編/協同医書出版社、精神科リハビリテーション・ケースブック/野田文隆他/医学書院 地域リハビリテーション学第2版/重森健太・横井賀津志　編/羊土社
この授業の基礎となる科目	**この授業を基礎とした科目**
社会福祉学、リハビリテーション概論、作業療法概論、リハビリテーション体育身体障害の評価学、精神障害の評価学、発達障害の評価学	地域作業療法Ⅱ、地域作業療法演習、 高齢期の治療学および各領域の治療学、 関係法規、臨床実習
単位認定の方法及び基準	**試験やレポートの評価基準など**
定期試験結果（90%）、授業参加、課題提出物等（10%）を加味して判定する。	定期試験は60点以上を合格点とし、課題提出物は提出期限、課題目的に沿った内容か等を考慮して評価する。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　後期
科目名	地域作業学演習	履修	必修	授業形態	演習
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	2単位	教員実務経験	有
教員名	遠藤　陵晃・奥原　孝幸	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・患者および障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識、技術を習得し問題解決能力を培う。
・地域作業療法の実践課程における評価の視点から支援計画までの枠組みを理解できる。
・地域作業療法の実践を理解するためプログラム立案と実践方法を理解できる。
・各領域における実践事例を通して作業療法士の活動内容と役割について学び地域との連携について理解する。

【目標行動（SBOｓ】

・身近な地域で働いている作業療法士を説明できる。
・地域における作業療法について説明できる。
・地域と生活者への支援を説明できる。
・地域作業療法おける評価から援助目的まで学生同士で話し合うことができる。
・身近な地域をもとに地域作業療法の実践を説明できる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	オリエンテーション	16	職業関連活動領域
2	地域作業療法学総論	17	地域作業療法学各論（精神障がい領域）
3	施設見学（1）	18	
4		19	地域作業療法学各論（身障領域）
5	施設見学（2）	20	
6		21	地域作業療法学各論（高齢期領域）
7	施設見学（3）	22	
8		23	地域作業療法学各論（発達障がい領域）
9	グループワーク（1）報告会	24	
10		25	グループワーク（3）
11	グループワーク（2）報告会	26	
12		27	発表・補足
13	職業関連活動領域	28	
14		29	まとめ
15	職業関連活動領域	30	定期試験

使用テキスト	参考テキスト
標準作業療法学　専門分野 地域作業療法学　第3版／大熊明・加藤朋子　編／医学書院	職業リハビリテーション学　改訂第2版／松為信雄・菊池恵美子　編／協同医書出版社
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
地域作業療法学Ⅰ、Ⅱ	臨床実習Ⅱ，総合臨床実習Ⅲ、Ⅳ
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
授業参加態度（20%）、課題提出物（20%）、発表（20%）、定期試験（40%）	定期試験は60点以上を合格点、課題提出物は提出期限、課題目的に沿った内容か等を考慮して評価する。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　集中
科目名	臨床実習Ⅰ	履修	必修	授業形態	実習
授業時間	1回　　120時間	単位数	3単位	教員実務経験	有
教員名	宮田　千恵子	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・ホスピタリティマインドを持った作業療法士となる為、指導者の監督下において‘職業人としての倫理的/常識的な態度、振舞いをすることができる。

・意欲、探求心を持ち、臨床場面での作業療法士の役割や施設の機能を理解をし‘情報を共有することができるよう習得する。

【目標行動（SBOｓ】

・プレセミナーを受講し、実習に向けてレディネスを高め、自己の実習課題について発表できる。
・専門職、職業人（OT学生）として、望ましい態度や行動をとることができる。
・専門職、職業人（OT学生）として倫理観を学習し、行動できる。
・専門職、職業人（OT学生）としての適切な人間関係に参加する。
・臨床実習後、学内で施設や作業療法士の役割や関連職種の業務および連携について発表できる。
・臨床実習後、施設ごとの作業療法士の求められている業務の違いを説明できる。
・臨床実習後、作業療法士の役割、関連職種の業務や施設の役割などについて討論できる。

日程	内容
2023/1/16～01/20	プレセミナー
2023/01/23～01/27 01/30～02/03	実習：見学・評価体験・記録・報告他
2023/02/06～02/10	ポストセミナー

使用テキスト	参考テキスト
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック．誠信書房 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のための SOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社．初版	遠藤敏他監修：これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド．金芳堂 嶋崎明美著：医事紛争を防げ！演習で学ぶ医師・看護記録．金芳堂．初版
この授業の基礎となる科目	**この授業を基礎とした科目**
ホスピタリティ論、キリスト教学、リハビリテーション概論、作業療法概論、身体障害の評価学A等	各臨床医学、各評価学、各治療学、各臨床実習等
単位認定の方法及び基準	**試験やレポートの評価基準など**
実習については全日参加。プレセミナー、ポストセミナーとも８５％以上の出席が単位取得の最低条件です。	実習地での見学内容を参考に、プレ・ポストセミナーの受講・発表態度、各課題や書類提出、報連相、お礼状等すべてを総合的に判断。課題未提出や書類不備等、連絡不足の場合は減点。

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　集中
科目名	臨床実習Ⅱ	履修	必修	授業形態	実習
授業時間	2回　280時間	単位数	7単位	教員実務経験	有
教員名	宮田千恵子	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・作業療法学生としての臨床の実地方法を学ぶ。・実習指導者が実施する作業療法を学ぶ。
・見学ー模倣ー実施を段階的に学習することで作業療法技術を習得する。
・実習指導者が実施する作業療法の臨床的思考を学ぶ。

【目標行動（SBOｓ】

・プレセミナーを受講し、実習に向けて模擬患者を通じて、レディネスを高め、自己の実習課題について述べることができる。
・専門職、職業人（OT学生）として、望ましい態度や行動をとることができる。
・専門職、職業人（OT学生）として倫理観を学習し、行動できる。・専門職、職業人（OT学生）としての適切な人間関係に参加する。
・専門職、職業人（OT学生）として事例を通じ、観察・面接・検査などを経験する。
・臨床実習後、学内で模擬患者に対して、評価技法や職業人としての行動ができる。
・実習終了後、学内で学んだ内容について発表できる。　・実習終了後、学内で他の学生の学んだ内容について情報共有できる。

日程	内容
2022/11/07～11/11	プレセミナー
2022/11/14～12/02 12/05～12/23	評価実習：情報収集・評価計画・評価実施・記録・報告他
2022/12/26～ 2023/12/29	ポストセミナー
2023/01/05～01/12	実習振り返り

使用テキスト	参考テキスト
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック．誠信書房 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のための SOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社．初版	遠藤敏他監修：これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド．金芳堂 嶋崎明美著：医事紛争を防げ！演習で学ぶ医師・看護記録．金芳堂．初版
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
臨床実習Ⅰ各領域の作業療法評価学	臨床実習Ⅲ・Ⅳ
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
実習については全日参加。プレセミナー、ポストセミナーとも８５％以上の出席が単位取得の最低条件です。	実習地での評価内容を参考に、プレ・ポストセミナーの受講・発表態度、レポート到達度（計画立案まで）や課題・書類提出、報連相、お礼状等すべてを総合的に判断。課題・書類不備等、連絡不足の場合は減点。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	4年　　集中
科目名	臨床実習Ⅲ・Ⅳ	履修	必修	授業形態	実習
授業時間	各1回　　各360時間	単位数	各8単位	教員実務経験	有
教員名	宮田　千恵子・加藤　智也	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養う。
・見学ー模倣ー実施を段階的に学習することで作業療法技術を経験する。
・事例に対する治療実施を実習指導者から学び、さらに再評価、再目標設定、再治療計画立案までの思考能力・実践能力を養う

【目標行動（SBOｓ】

・プレセミナーを受講し、実習に向けて模擬患者を通じて、レディネスを高め、自己の実習課題について述べることができる。
・作業療法評価を実施し、対象者の生活機能と障害について検討できる。
・作業療法計画立案することができる。
・作業療法計画に沿って、作業療法を実施する。
・再評価を適切に実施し、作業療法計画を修正できる。
・各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる。
・チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を身につける。
・臨床実習後、学内で模擬患者に対して、評価技法や職業人としての行動ができる。
・臨床実習後、体験した事例について発表ができる。
・臨床実習後、事例について互いに討論できる。

日程	内容
05/30～06/03	プレセミナー
06/06～07/29	総合臨床実習（Ⅰ期）：情報収集・評価計画及び実施・治療実施・記録・報告他
08/01～08/04	Ⅰ期ポストセミナー
8/22～10/14	総合臨床実習(Ⅱ期）：情報収集・評価計画及び実施・治療実施・記録・報告他
10/17～21	Ⅱ期ポストセミナー
10/24～29	実習振り返り

使用テキスト	参考テキスト
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック．誠信書房 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のための SOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社．初版	遠藤敏他監修：これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド．金芳堂 嶋崎明美著：医事紛争を防げ！演習で学ぶ医師・看護記録．金芳堂．初版
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
臨床実習Ⅱ	研究B
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
実習については全日参加。プレセミナー、ポストセミナーとも８５％以上の出席が単位取得の最低条件です。	実習地での評価内容を参考に、プレセミナー、ポストセミナー受講態度、発表内容、発表態度、レポート到達度（治療実施、再考察）、各課題や書類提出、報連相、お礼状などすべてを総合的に判断する。課題未提出や書類不備等、連絡不足の場合は減点。

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	1年　　通年
科目名	セミナー	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	4単位	教員実務経験	有
教員名	三浦　美紀	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・作業療法科の学生として、医療人の心構えや他者への思いやり、他者と論理的に討論することができる。

・YMCAの学生生活が、円滑に過ごせるように、施設やルール、学習方法などを修得する。

【目標行動（SBO s】

・学生としての、生活習慣および学習方法を学び、行動できる。

・ホスピタリティマインドを持ち、行動できる。

・グループワークに参加し、意見交換をすることができる。

・他学年との相互交流を通して、適切な態度を身につける。

・地域生活・社会活動に参加することができる

回数	授業計画または学習の主題		
1	4月12日：縦割り班活動１～4年　顔合わせ	16	縦活free(1～3年)：読書活動への参加
2	4月19日：縦活　レポートの書き方など	17	
3	4月26日：縦活　今後の地域活動計画	18	
4	5月10日：1年生班活動	19	
5	5月17日：合同礼拝（YMCAについて）	20	
6	縦活free(1～4年)：地域活動への参加	21	
7		22	
8		23	10月11日：チャリティーラン事前説明相談
9	5月24日：合同セミナー　地域活動経過発表	24	10月15日：チャリティーラン参加
10	6月7日：縦活1～3年　今後の読書活動計画	25	11月1日：縦活合同1～4年　読書活動発表
11	縦活free：読書活動への参加	26	11月22日：ウエルカムフェスタ準備
12	7月5日:縦活1～3年　試験対策伝授	27	11月23日：ウエルカムフェスタ参加
13	7月12日:実習準備関連（抗体検査等説明）	28	
14	「AIDS文化フォーラム」参加	29	11月29日：縦活1・3・4年試験対策伝授
15	(8月5日～8月7日)	30	12月3日：クリスマス礼拝参加

＜その他行事＞　入学式、チャリティラン、卒研究発表会、ウェルカムフェスタ、クリスマス礼拝等

使用テキスト	参考テキスト
作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック／京極真、鈴木憲雄／誠信書房	学生のレポート・論文作成トレーニング／桑田てるみ／実教出版
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
ホスピタリティ論、社会学など	各基礎研究、各臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
班活動への参加・取り組み度・レポート(50%) 地域活動・行事への参加・取り組み度(50%)	左記比率による総合評価で60点以上を合格とする

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	2年　　通年
科目名	セミナー	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	4単位	教員実務経験	有
教員名	遠藤　陵晃	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・作業療法科の学生として、医療人の心構えや他者への思いやりを身につける。
・他者と論理的に討論することができる。
・作業療法士に求められる態度・知識・技術について理解できる。

【目標行動（SBOｓ】

・学生としての、生活習慣および学習方法を学び、行動できる。
・ホスピタリティマインドを持ち、行動できる。
・グループワークに参加し、意見交換をするなかで他者の意見を尊重する事ことができる。
・他学年との相互交流を通して、伝達の重要性を理解することができる
・地域生活・社会活動に主体的・計画的に参加することができる

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	4月5日：縦割り班活動　2年～4年打合せ	16	2年生実習準備：個人資料の作成等
2	4月12日：縦活　1年～4年顔合わせ	17	
3	4月19日：縦活　レポートの書き方など	18	
4	4月26日：縦活　今後の地域活動計画	19	縦活free(1～3年)：読書活動
5	5月17日：合同礼拝（YMCAについて）	20	
6	縦活free：地域活動への参加	21	
7		22	2年生実習準備（記録・レポートの作成練習等）
8		23	
9	5月24日：合同セミナー　地域活動経過発表	24	
10	6月7日：縦活1～3年　今後の読書活動計画	25	11月1日：縦活合同1～4年　読書活動発表
11	縦活free：読書活動への参加	26	2年生：読書活動まとめ
12	7月5日：縦活1～3年　試験対策伝授	27	
13	7月12日：実習準備関連（:抗体検査等説明）	28	
14	「AIDS文化フォーラム」参加	29	2年生：試験対策活動
15	（8月5日～8月7日）	30	

使用テキスト	参考テキスト
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック．誠信書房 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のためのSOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
セミナー（1年）	セミナー（３・４年）、各種臨床実習など
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
講義参加貢献（10%）、課題（40%）、定期試験（50%）を総合的に判断する。	総合評価にて６０点以上で合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	3年　　通年
科目名	セミナー	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	4単位	教員実務経験	有
教員名	宮田　千恵子	背景	作業療法士として病院に勤務		

【一般教育目標（GIO）】

・評価実習や総合臨床実習に向けて職業人としての基本的な行動がとれるようになる。
・他者と論理的に討論することができる。
・作業療法士に求められる態度・知識・技術について理解し、実際に適用する。

【目標行動（SBOｓ】

・実習記録の書き方や観察の視点を学び実践できる。
・学習計画を立案し、主体的に時間管理ができるようになる。
・他学年との相互交流を通して、育む・労わることを実践できる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	4月5日縦割り班活動2年～4年打合せ	16	縦活free1～3年：読書活動への参加
2	4月12日縦割り班活動1年～4年顔合わせ	17	
3	4月19日：縦活　レポートの書き方など	18	
4	4月26日：縦活　今後の地域活動計画	19	
5	5月17日：合同礼拝（YMCAについて）	20	
6	縦活1年～4年：地域活動への参加	21	
7		22	縦活free1～3年：読書活動発表準備
8		23	
9	5月24日：合同セミナー　地域活動経過発表	24	
10	6月7日：縦活1～3年　今後の読書活動計画	25	11月1日：縦活合同1～4年　読書活動発表
11	縦活free：読書活動への参加	26	3年生実習準備（記録・レポートの作成練習等）
12	7月5日：縦活1～3年　試験対策伝授	27	
13	7月13日：試験対策活動（3年生）	28	試験対策活動(3年)
14	「AIDS文化フォーラム」参加	29	11月29日：縦活1・3・4年試験対策伝授
15	（8月5日～8月7日）	30	12月3日：クリスマス礼拝参加

使用テキスト	参考テキスト
	学生のレポート・論文作成トレーニング／桑田てるみ／実教出版 スタディスキル・トレーニング改訂版／吉原恵子他／実教出版 作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック／京極真、鈴木憲雄／誠信書房　岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のための SOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社、初版
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
臨床実習Ⅰ、作業療法研究基礎Ⅰ セミナー（1、2年）	臨床実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、作業療法学研究A セミナー4年
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
班活動への参加・取り組み度・レポート(50%) 地域活動・行事への参加・取り組み度(50%)	左記比率による総合評価で60点以上を合格とする。

横浜YMCA学院専門学校

教　科　概　要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	開講時期	4年　　通年
科目名	セミナー	履修	必修	授業形態	講義
授業時間	30ｺﾏ　　60時間	単位数	4単位	教員実務経験	有
教員名	加藤　智也	背景	作業療法士として病院に勤務		

・ホスピタリティマインドを持った作業療法士になるために、社会人としての基礎力を身につける。
・地域・文化活動において他者を労わることができる。

【目標行動（SBO s】
・インターン実習に向け、社会人・作業療法士としての必要なマナーや一般常識を演習を通して実践することができる。
・実習や就職活動、国家試験対策など１年間のスケジュールを自分で立て、それに沿って行動できる。
・地域文化活動に率先して参加することができる。
・地域文化活動の意味を他者と共有することできる。

回数	授業計画または学習の主題	回数	授業計画または学習の主題
1	4月5日縦割り班活動2年～4年打合せ	16	11月1日：縦活合同1～4年　読書活動発表
2	4月12日縦割り班活動1年～4年顔合わせ	17	4年生：国試対策グループ活動
3	4月19日：縦活　レポートの書き方など	18	
4	4月26日：縦活　今後の地域活動計画	19	
5	5月17日：合同礼拝（YMCAについて）	20	11月22日：ウエルカムフェスタ準備
6	縦活free 1年～4年：地域活動への参加	21	11月23日：ウエルカムフェスタ参加
7		22	
8		23	11月29日：縦活1・3・4年試験対策伝授
9		24	12月3日：クリスマス礼拝参加
10		25	
11		26	4年生：国試出願手続
12		27	
13	5月24日：合同セミナー　地域活動経過発表	28	4年生：国試対策自主活動
14	「AIDS文化フォーラム」参加	29	
15	(8月5日～8月7日)	30	

使用テキスト	参考テキスト
適宜、プリントを配布します。	
この授業の基礎となる科目	この授業を基礎とした科目
1・2・3年生セミナー等	就職活動、研究B(国試対策)
単位認定の方法及び基準	試験やレポートの評価基準など
班活動への参加・取り組み度・レポート(50%) 地域活動・行事への参加・取り組み度(50%)	左記比率による総合評価で60点以上を合格とする。

横浜YMCA学院専門学校